

日本家庭教育学会
令和7年度第40回記念大会のご案内

◆大会テーマ

家族を思い、家庭に依り、共に生き共に育つ
—日本家庭教育学会の奮闘を振り返りながら—

◆主 旨

振り返りますと、1986年、筑波大学附属小学校を会場として第1回大会が開催されました。本年は第40回の記念すべき大会を迎えます。

鮮明に思い起こされるのは、すでに故人となられたお二人の碩学、すなわち初代会長の中村元東大名誉教授、初代理事長の高橋進筑波大教授が、大会の冒頭に相次いで登壇されたことです。お二方はどのようなお話しされたのでしょうか。その趣旨は、本学会の趣意書のなかに認められると思われます。以下にご注目ください。

「…家庭における子どもの人間形成は、学校教育と同様、知・徳・体の全般に関わる。したがって、今後の家庭教育のあり方を検討するためには、家庭ないし家族とは何か、親子・兄弟等の人間関係はいかにあるべきか、子どもの心身の全人的発達をいかに促すか、学校教育との関連はいかにあるべきか、等々、実生活における体験・反省や人文・社会諸科学をはじめ医学・体育学・家政学等の諸学問による学際的研究とともに、さらに学校教育の実践的研究等とも密接なる連繫をはかりつつ、推進する必要がある。」

この40年の間には、確かに「教育基本法改正」（2006）にみるように家庭教育の重要性が意識され、さらには「こども家庭庁の発足」（2023）によって、行政は本腰を入れて家庭教育の普及に努めようとしているかの感もあります。

その一方で、「いまだけ、かねだけ、じぶんだけ」と揶揄される時代相にあって、家族について、ときに人は「病」といい、また「クスリ」ともいいます。このように、家族・家庭を取り巻く状況は、残念ながら、とても樂觀視できるものではありません。

これまでに、本会にご参加くださった方々、あるいはご協力を賜りました団体・個人の皆様の足跡を踏まえながら、日本家庭教育学会のこれまでの歩みと今後の方向性について、より具体的に回顧・展望したいと思います。

◆日 時：令和7年8月23日（土）10：10～17：00

◆場 所：貞静学園短期大学

◆参加費：1000 円

◆プログラム：

09：40 受付開始

10：10 開会式

10：30 研究発表

12：30 昼食・休憩 （※常任理事会）

14：00 全体会：司会 前林清和 神戸学院大学教授

提言 佐藤貢悦 筑波大学名誉教授

討論 倫理研究所、スコーレ家庭教育振興協会、東京家庭教育研究所、
家庭教育支援協会、高橋史朗氏（麗澤大学特別教授）

16：30 閉会式・会員総会